

校長室より

第8号

「天空高き」



平成22年10月4日

楽学祭から若鷹祭へ！—感想あれこれ—

第2回楽学祭が終わりました。初日の森本ケンタさんのコンサートは楽しめましたね。背が高く甘いマスクで、美しいメロディーに優しい詩ですが、歌声は男らしく、熱いメッセージが込められていました。

2日目は有志による合唱と書道パフォーマンス。そして甲子園ダンス。ステージ上で大きな声を出して歌うことはさぞかし気持ち良かったことでしょう。書道部の力強く美しい文字は、日頃の地道な活動の成果を見事に披露してくれました。ダンスは踊る楽しさを我々に伝えてくれました。回を重ねる毎にグレードアップし楽学祭の名物として定着していくことでしょう。

文化部の展示や作品もなかなかの力作が揃っていましたが、折角の機会ですから、観客に見せようというプレゼンテーションにもっと創意工夫があれば作品がより生きたのではないかと思います。

今年からクラブに昇格した長唄・三味線部は観客に見ていただくとする演出が際だっていたと思います。演奏終了後は三味線を手に弾く機会が設けられていました。残念だったのは観客が少なかったということです。来年は是非、ステージ上で多くの観客を魅了してもらいたと思います。

各クラスの催しではお化け屋敷が長蛇の列で人気を博していました。整理券を発行する等の工夫があれば有効に時間を使えたと思います。

試食コーナーも人気でしたが、市販の物を加工したものが多く、材料選びの段階から手間暇を掛け、食を楽しんでもらえるレベルで勝負してもらいたと思います。また、飾り付けも含め



企画力のアップをお願いしたいと思います。

閉会行事では吹奏楽の演奏の前にお笑いがあり、待ち時間を上手く利用していました。来年度は、観客にアピールし、楽しんでもらうために生徒や先生方の意識向上が必要ですし、見る側の意識とマナーの向上も大切です。今回はあまり中学生の出番がありませんでしたが、次年度はひとつのコーナーを設けて参加してもらおうと考えています。

さて10月末の若鷹祭は一人ひとりが主役です。学年やクラスの合奏、各学年のプレゼンテーションを楽しみにしています。



新人戦へいざGO！

第7号で2010ワールドカップ南アフリカ大会、岡田ジャパンについてお話ししました。一人ひとりが思いきりのあるプレーをしたこととチームの和で、見事予選突破を果たしました。

世界の16強に入ることはサッカーの世界ではすごいことで、世界中から注目され、尊敬するに値することです。今後は監督に就任したザックローニの手腕に期待したいと思います。

さて、10月9、10日にかけて岩国管内の新人大会が開催されます。2年生を中心に一生懸命練習に取り組んできた成果が見られます。

どのチームも勝つためには、一人ひとりの高い集中力とチームの「和」が必要です。集中力は日頃の授業を含め、どの場面においても真剣に取り組むことによって養成されます。チームの「和」は、毎日の練習に一人ひとりがチームのために何をしなければいけないかを考えながら取り組んでいる中で培われていきます。要するに集中力もチームの「和」も、一人ひとりがいかに日常生活を大切に過ごしているかが問われる、ということです。

勝負事ですから時には運に左右されることがあるかもしれませんが、運を引き寄せることができるかどうか日頃からの皆さんの心がけ次第です。応援する我々に感動と勇気を与えてくれるゲームを期待します。



Where is Rakugakukyou ?

高水高等学校附属中学校
校長 前田 茂雄

今月の言葉 「むつかしいことはやさしく、やさしいことは深く、深いことは面白く」 井上ひさし